

加賀電子本社 屋上ビオトープ 調査・管理報告書

活動日	2026年6月1日	天候	晴れ	活動時間	10:00～11:45
作業者	久保田 潤一、山下 洋平			報告者	山下 洋平
目的	生物調査、ビオトープ管理				
内容					
【作業内容】 ・ビオトープの写真撮影 ・水深の確認 ・生物調査 ・外来種のチェック ・池内の外来植物の駆除 ・景観を整えるための草刈り ・アオミドロの除去 【生物調査の詳細】 ・ビオトープ創出時に導入した生物(ミゾコウジュ)も含め、生息・生育状況の調査を実施。 ・トチカガミが殖芽を形成していた。本種の葉や茎は冬になると枯れるが、殖芽は水底に残り、翌春に芽や根が出る。 ・シャジクモが池内に広く繁茂していた。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧II類の希少種である。 ・導入したミゾコウジュは、ちょうど花期であった。 ・シオカラトンボ、アジイトンボのヤゴを確認した。これらの種は幼虫越冬である。 ・アジイトンボの成虫を確認した。 ・コナギの発芽を確認した。 ・初確認となるゴウソを確認した。 【その他】 ・植物が繁茂し、混み合っていたため、抽水植物を根際部分から刈り取る管理作業を行った。 ・アオミドロの発生がかなり多く、可能な限り除去した。 ・池の内部に外来種であるニワゼキショウが生育していたため駆除した。					

	No. <u>1</u> 撮影日 : 2026年6月1日 撮影場所 : 加賀電子屋上ビオトープ 解説 ビオトープの様子。
	No. <u>2</u> 撮影日 : 2026年6月1日 撮影場所 : 加賀電子屋上ビオトープ 解説 トチカガミのまわりにシャジクモが繁茂している。
	No. <u>3</u> 撮影日 : 2026年6月1日 撮影場所 : 加賀電子屋上ビオトープ 解説 導入したミゾコウジュは、開花していた。

	No. <u>4</u> 撮影日: 2026年6月1日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 発芽したコナギ。
	No. <u>5</u> 撮影日: 2026年6月1日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 シオカラトンボのヤゴ。
	No. <u>6</u> 撮影日: 2026年6月1日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 アジイトンボのヤゴ。

	No. <u>7</u> 撮影日: 2026年6月1日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 ギンヤンマの抜け殻
	No. <u>8</u> 撮影日: 2026年6月1日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 アジイトンボの成熟個体♂
	No. <u>9</u> 撮影日: 2026年6月1日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 アジイトンボの未熟個体♀

	No. <u>10</u> 撮影日: 2026年6月1日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 初確認となるゴウソ。
	No. <u>11</u> 撮影日: 2026年6月1日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 池内で確認したセスジヒメテントウ。 誤ってビオトープに落ちたと思われる。

加賀電子本社屋上ビオトープ 確認生物リスト

※今回調査での確認種に青色をつけています

分類	種名	経緯 ※別表1	希少性 ※別表2		外来種	備考	確認記録 2023年度			確認記録 2024年度			確認記録 2025年度		確認記録 2026年度	
			環境省	東京都 区部			7/10	7/29	10/10	5/29	7/27	10/21	6/20	10/21	6/1	
昆虫類	キマダラカメムシ				○						○					
	ヒメアメンボ	自然飛来					○	○								
	ミズギワカメムシ科の一種	自然飛来						○								
	ホルバートケシカタピロアメンボ	自然飛来									○		○		○	
	アジアイトトンボ	自然飛来				成虫、幼虫を確認			○	○	○	○		○	○	
	ギンヤンマ	自然飛来				抜け殻を確認						○		○	○	
	シオカラトンボ	自然飛来				幼虫を確認	○			○	○	○	○	○	○	
	オオシオカラトンボ	自然飛来					○	○								
	ショウジョウトンボ	自然飛来						○	○	○						
	ウスバキトンボ	自然飛来						○								
	コカゲロウ属の一種	自然飛来					○	○								
	セスジスズメ	自然飛来										○				
	オオスカシバ	自然飛来											○			
	アゲハチョウ	自然飛来											○			
	ハナアブ科の一種	自然飛来													○	
	ヒメカメノコテントウ	自然飛来							○		○					
	セスジヒメテントウ	自然飛来													○	
	ダンドラテントウ	自然飛来							○							
	セマダラコガネ	自然飛来											○			
	トゲバゴマフガムシ	不明					○									
クモ類	アダンソンハエトリ										○					
植物	ミゾコウジュ	導入	NT	VU		開花を確認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	シャジクモ	発芽	VU	VU			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	コナギ	発芽						○	○		○			○	○	
	ツユクサ	発芽						○	○							
	アゼナ	発芽									○	○				
	アメリカアゼナ	発芽			○			○	○							
	ニワゼキショウ	発芽			○	2026/6/1に駆除				○					○	
	エノキグサ	発芽							○							
	イヌタデ	発芽												○		
	トチカガミ	発芽	NT	EX				○	○	○	○	○	○	○	○	
	ガマ科の一種	発芽								○	○	○	○	○	○	
	フトイ	発芽							○	○	○	○		○	○	
	イグサ科の一種	発芽									○	○	○	○	○	
	ゴウソ	発芽													○	
	サンカクイ	発芽									○	○			○	
	カンガレイ	発芽		VU					○		○	○		○		
	カヤツリグサ	発芽							○		○			○	○	
	タマガヤツリ	発芽							○							
	ミコシガヤ	発芽		NT						○						
	カヤツリグサ科の一種	発芽					○	○	○	○						
	メヒシバ	発芽							○							

※確認記録 ○:調査で確認 △:聞き取り等で確認

別表1 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの
発芽	ビオトープに導入した土から自然に発芽した植物

別表2 希少性の表記について

表記	カテゴリー名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの